



令和7年
6月

学校だより

心ゆたかに かしこく たくましく
～ 自律・感謝 ～

さいたま市立大砂土東小学校
Tel 048(684)8003
令和7年5月29日発行

いじめと自己有用感

校長 石川 顕一



▲砂東5つのいっぱい

初夏のような陽気の中、子どもたちは運動会の練習に熱中しています。学校は、子どもたちが熱中症にならないように、熱中症指数の観測、水分補給、こまめな休憩に努めています。ご家庭でも健康管理にご留意くださいますようお願いいたします。

私はスポーツ観戦が大好きです。様々な試合を見てきましたが、思い出したくもない不快な試合があります。10年以上前のサッカー日本代表の試合です。相手の選手がペナルティキックを決めた後、カメラに向かってサルのようなまねをしたのです。日本人がサルに似ているという軽蔑によるものでした。私は、侮辱されたようでとても不快な思いをしました。

また、最近のお笑い番組の一部にも、不快なものが見受けられます。出演者の容姿や振る舞いを小馬鹿にして笑いをとっているのは、見るに堪えません。おもしろければ、人権を侵害してもいい訳がありません。

主に私たち大人が構成する社会には、たくさんの人権問題が存在しています。そこで人権を守ろうと、法整備を進めたり体制を見直したりしてきました。それでもなかなかなくなるのが現実です。

さて、学校という子どもの社会でも、大人と同様に、残念ながらいじめという人権問題が起こります。子どもたちに関わる全ての人たちで、「いじめの防止」「早期発見」「いじめに対する措置」について具体的に取り組んできました。

私は、その具体的な取組の中でも、「互いの良さを認め、褒める」ことが重要だと捉えています。授業や日常生活の中で活躍できる場面をつくりだし、子どもたちの「自己有用感」が高まれば、いじめには向かわないものです。子どもは、身近な大人・親しい大人に褒められると、それが大きな自信となり自己有用感が高まっていきます。欠点ばかりが指摘される冷たい環境下では、自信を持たない子ども、他者の人権を軽視する子どもが生まれる可能性が高まります。

本校では、互いの良さを認め、褒められる環境をつくり、子どもたちの笑顔があふれる学校、思いやりに満ちた学校にしようと取り組んでいるところです。子どもを取り巻く環境を整えることで、いじめは少なくなるものと信じています。

この取組を全ての子どもたちが積み重ねていくことによって、人を侮辱したり小馬鹿にしたりすることのない社会が生まれます。人権問題のない社会の中でこそ、Well-beingな人生を送ることができるのです。

次は、平成22年にいじめが原因によるに痛ましい事件が日本全国で起きたことを受けて、さいたま市教育委員会教育長、さいたま市PTA協議会会長、さいたま市立小学校・中学校・高等学校校長会長の連名で、緊急アピールとして小・中学生に向けて示したものです。【一部抜粋】

未来ある子どもたちを、何としても守っていきましょう。

緊急アピール

「とても大切なあなたたちへ」

- 1 自分と同じ人間はいません。一人ひとりそれぞれ違っていています。だから、好きな人もいれば、嫌いな人もいます。でも、嫌いだからといって、その人に嫌がらせをしたり、いじめたりすることは、人としてやってはいけないことです。恥ずかしいことです。まして、人をさそってみんなでいじめるなどは、とてもひきょうな行いです。
- 2 自分がいじめられていると思っている人は、そんなひきょうな行いに負けないでください。一人でなやんだり、かかえこんだりしないで、必ず周りの大人に相談しましょう。
- 3 人には、やってよいことと悪いことを判断する力があります。いじめを見たら、勇気をもってその事実を周りの大人に知らせてください。自分の名前が知られたくなかったら、そのことも伝えておきましょう。
- 4 人生には、誰にでもつらいことや苦しいことがあります。また、楽しいことやあなたがまだ知らない喜びもたくさんあります。

苦しいときには、誰でもいいからすぐに相談しましょう。電話でも、どんな方法でもかまいません。思っていることを口に出すと楽になります。苦しみは分かち合えるものです。

信じられる人、気持ちを受け止めてくれる人は、あなたのそばに必ずいます。

令和22年11月18日